

【全体概要】

イチゴ栽培における生産性向上に向け、主要病害虫であるうどんこ病及びスリップス類の対策として、新たなIPM技術の導入による生産安定技術の効果検証を行った。

新品種・新技術等の概要

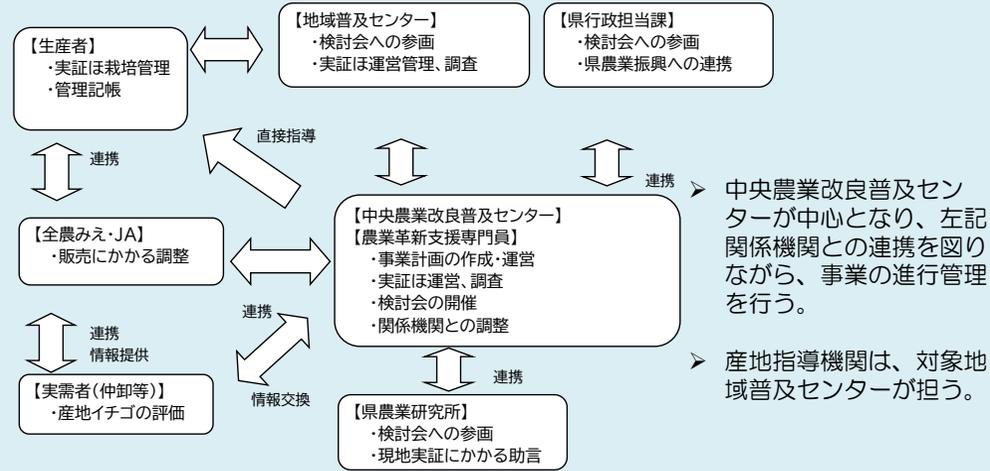
- ① 紫外線照射によるうどんこ病発病抑制技術（物理的防除）**
育苗期と本圃栽培期において、夜間に紫外線UV-Bライトを照射することで、うどんこ病の発生を抑制する。
- ② 天敵活用によるスリップス類防除技術（生物的防除）**
天敵（カブリダニ類、アカメガシワクダアザミウマ）を活用することで、スリップス類の発生を抑制し、化学農薬の使用量削減を図る。
- ③ 天敵活用と高濃度炭酸ガス殺虫法との組み合わせによるスリップス類防除技術（生物的防除・物理的防除）**
天敵（カブリダニ類、アカメガシワクダアザミウマ）と高濃度炭酸ガス殺虫法を併用することで、スリップス類の発生を抑制し、化学農薬の使用量削減を図る。

主な取組内容

うどんこ病対策の新技術として紫外線照射による発病抑制技術に、スリップス類対策の新技術として天敵活用防除技術及び天敵活用と高濃度炭酸ガス殺虫法との組み合わせによる防除技術に取り組むことで、IPM技術の導入による生産安定技術を確立する。

また、現地への普及を図るための手引書を作成する。

実施体制図



課題と今後の対応

①～③の技術とも本圃において、当該年度中である3月までの発生抑制効果を確認することができたが、最終的には、令和5年の収穫終了時までの防除効果を加味した検証が必要となる。

また、UV-Bライトによるうどんこ病防除に関しては、育苗圃における効果が判然としなかったため、令和4年度に被害が確認された害虫の侵入防止のための防虫ネットを新たに設置することで、翌年度も継続してその効果の検証を行う。

さらに、導入経費を加味した経済性を評価することにより、化学農薬の使用量削減につなげられる手引書を作成する。